

国連防災世界会議 パブリックフォーラム～ユニセフシンポジウム（3月14日）に1000名様ご招待



東日本大震災から4年を迎える今年3月、第3回国連防災世界会議のパブリックフォーラムとして、ユニセフシンポジウムを東京エレクトロンホール宮城・大ホールで午後2時半から開催します。世界中で頻発する自然災害により一瞬にしてこれまでの“日常”を奪われ、心に深い傷を負っていることも少なくありません。ユニセフは、長年にわたる世界各地での支援活動から培った知見をもとに、災害で影響を受けた子どもたちに、子どもらしく過ごす時間を取り戻せる「居場所」を提供し、子どもの日常に欠かせない「遊び」を通じて心のケアを提供しています。ユニセフのアンソニー・レーク事務局長や東日本大震災の被災地の現場で活動する各分野の専門家を迎え、「遊び」、「居場所」、「参加」をキーワードに、子どもに視点を置いた復興や防災のあり方を考えます。コーディネーターはアグネス・チャン日本ユニセフ協会大使。申し込みはインターネット：www.unicef.or.jp/event/sendai2015あるいはFAX 03-5789-2036で、①「3/14 ユニセフシンポ」②参加者全員のお名前と③連絡先を明記してください。『東日本大震災の経験を次への備えに』皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

東ティモール・スタディツアーの報告会を開催しました

東ティモールは2002年に独立したアジアで一番若い国。面積も小さく、人口は約120万人、その半分以上が子どもで占められています。赤ちゃんは18人に1人が誕生時に命を落とし、出産時のお母さんの死亡率も高く、保健・栄養面でのケアが必要です。2014年度から、東北と九州・沖縄の生協で指定募金を始めています。みやぎ生協理事の薄木芳美さんが、2014年10月に「ユニセフ・スタディツアー」で、アイナロ県・エルメラ県の保健センターや小学校などを訪問しました。その報告会を、1月14日（水）にフォレスト仙台の会議室で開催し、70名が参加しました。「ユニセフクイズ」や、東ティモールの赤ちゃんとお母さんや子どもたちの状況、支援の必要性について報告がありました。東ティモール・コーヒーの試飲や、現地の伝統織物タイスで作った小物類のバザーも行いました。たいへんわかりやすい説明で、「私たちのささやかな募金が少しでも東ティモールの支援に役立てられることがわかった」との感想があり、今後の募金協力につながることを期待します。



性について報告がありました。東ティモール・コーヒーの試飲や、現地の伝統織物タイスで作った小物類のバザーも行いました。たいへんわかりやすい説明で、「私たちのささやかな募金が少しでも東ティモールの支援に役立てられることがわかった」との感想があり、今後の募金協力につながることを期待します。

後藤健二さんのご冥福をお祈りいたします

世界の紛争地や途上国で、極めて困難な状況に置かれている子どもたちの状況を伝えてきた後藤さん。2010年の「ユニセフのつどい」で講演された際、著書のサインに添えられたことばは「奉仕・愛・分かち合い」。

“無理はしない。必ず生きて帰ってきて伝えます！”と言っていましたね。さぞ無念だったでしょう。あなたが伝えようとしたこと、変わらぬ尊厳意志を受けついでいきます。今、シリアやアフガニスタンの子どもたちの写真など数点をパネルにして、ウィズ2Fに展示しています。ごらんください。



©INDEPENDENT PRESS

宮城県ユニセフ協会 〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協ウイズ1F

Tel 022-218-5358 Fax 022-218-5945 E-mail sn.municef_miyagi@todock.jp

新しい情報はホームページが便利です <http://www.unicef-miyagi.gr.jp>

事務所：月曜日～金曜日

10：00～17：00

上記以外 080-5849-6072(五十嵐栄子)